

報 告 書

平成30年度

～ ずく出せ大町 みんなが主役 ～

第9回

市民参加と協働のまちづくりフォーラム

「世代をこえて つながろう」



大町市

日時

平成 30 年 12 月 15 日 (土)
13:00 開会 16:30 閉会

会場

サン・アルプス大町 2階「大会議室」

趣旨

まちづくりは身近でできることから始める実践活動の積み重ねが大切であり、現在、大町市が取り組んでいる「市民参加と協働のまちづくり」は、市民の皆さんの主体的な取り組みと行政の力がタイアップすることにより、より高い成果を目指すものです。

このフォーラムは、まちづくりに係わる人々が一堂に集い、互いの思いを知り、意見交換を行う中で、まちづくりの気運を高めるとともに、きらり輝く大町の創造に向かい、様々な世代の方、団体等関係者が協働してまちづくりを推進していくための機会です。



主催

大町市

主管：まちづくり交流課 市民活動サポートセンター

協力：NPO法人ぐるったネットワーク大町

参加者数

約 120 名

市民活動団体の関係者、自治会長、中学生、岳陽高校生、学校教諭、PTA役員、学校支援コーディネーター、行政職員など

日程

13:00 開会

13:15 - 14:20 【第1部】 市内中学生による地域学習の発表

◇仁科台中学校 ◇第一中学校

◇八坂中学校 ◇美麻小中学校

14:35 - 16:05 【第2部】 ミニワークショップ

10テーブルに分かれ、まちづくりについてグループトークを行いました。

16:05 - 16:30 グループ発表

16:30 閉会

会場展示

- 平成29年度「第8回市民参加と協働のまちづくりフォーラム」報告展
- 地域学習の成果 【第一中学校】【八坂中学校】
- 市民活動サポートセンター登録団体紹介
- 花づくり活動団体紹介
- つながる掲示板
- 信州花フェスタ2019



第1部 市内中学生による地域学習の発表

市内中学校では、現行学習指導要領で位置づけられている「総合的な学習の時間」を使って地域学習に取り組んでいます。第一部では、各中学校の生徒の皆さんに学習の取り組み内容や成果を発表していただきました。

進 行

NPO法人ぐるったネットワーク大町

発表者

各中学校から代表班が発表

発表時間

1校につき20分以内



市内4校の中学生による地域学習の記録

「大町の未来をつくるⅢ」

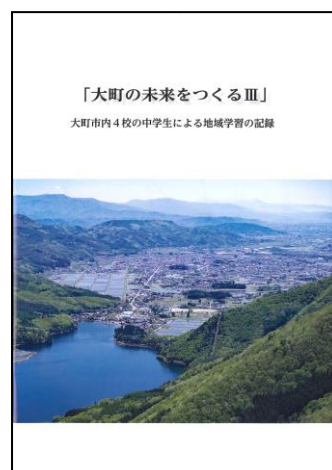
この冊子は、各中学校が取り組んでいる地域学習について、学習の目標や体系、生徒の具体的な学習内容などがまとめられています。学校と地域のつながりによる学習を通して、中学生が地域の魅力や課題に気付き、できることから実践しようとする様子が掲載されています。

作成：特定非営利活動法人 ぐるったネットワーク大町

発行：2018年12月15日

配布場所：NPO法人ぐるったネットワーク大町
大町市役所市民活動サポートセンター

※平成28年度版「大町の未来をつくる」及び
平成29年度版「大町の未来をつくるⅡ」も
ありますので、お声がけください。



《タイトル》

地域と共に生きる・・・テーマ「地域への恩返し」

《内 容》

大町市 PR 隊として、5つの講座に分かれて活動した。

・自然 ・観光 ・歴史 ・食 ・ボランティア ・信州花フェスタ

この内、3つの講座の取り組みを発表。

◇自然講座

～Google Map ストリートビューを活用した地域情報の発信～

大町市には美しくおいしい水が豊富にある。

世間の人たちにはあまり知られていないかもしれない…

⇒Google Map のストリートビューを使って、大町市の水をPR。

360度カメラで撮影した写真をアップした。

◇観光講座 CMチーム

大町市の自然の様子を撮影し、それを活かした約30秒の大町市のPRCMを2バージョン作成。会場にて放映。

⇒1本目は自然そのままの姿を伝えることを意識して撮影。

⇒2本目は、大町市の観光パンフレットに載っている写真の角度と同じ角度で撮影。

◇花フェスタ講座

各グループの取り組みを紹介

- ①チラシ作り
- ②ハーバリウム作り
- ③おかし作り
- ④しおり作り
- ⑤プランター作り
- ⑥仁中花壇の紹介
- ⑦花を写真に納めよう
- ⑧HP掲載
- ⑨風景画



《タイトル》

未来の大町プロジェクト

～考えようこれからの大町 自分たちにできること～



《内 容》

◇ACT1：大町の魅力を知る<パフォーマンス課題>

大町市職員となり、大町を訪れたくなるような観光紹介をする。

⇒3学年のアンケート結果から導いた大町の魅力を伝える5つのテーマの中から「食べ物が美味しい大町を伝える」

⇒扇沢秋の味覚祭りにて、大町産のりんごや雷鳥の里を売るお手伝いをしたり、自分たちで作った特産品を使ったレシピを配る。

◇ACT2：現状を知り、できることを考える<パフォーマンス課題>

東京から来た地域おこし協力隊となり、現状把握とできることを探す。

⇒3学年のアンケートの結果から導いた五つの現状把握の切り口の中から「少子高齢化が進む大町」

⇒少子高齢化について市民にアンケートを実施して分析。

◇ACT3：自分たちにできることを実行する<パフォーマンス課題>

大町市職員（ACT1）となり、地域おこし協力隊員（ACT2）と一緒にプロジェクトを企画・実行する。

⇒取り組み事例①

お年寄りから教わった昔の遊びや食べ物について、幼稚園児と一緒に遊んだり、クイズなどをして、高齢者と子どもをつなげた。

⇒取り組み事例②

病児保育充実のため、不用品を集めてふれあい広場でフリーマーケットを出店。市に売り上げを寄付し、集めた署名を渡した。

八坂中学校

発表：1学年・2学年代表

《タイトル》

八坂いいところ探し隊 ～現在のよさと未来構想～

《内 容》

八坂のいいところを探して、大勢の人に発信し八坂の良さを知ってもらおう。
そうすれば八坂が活気づき、勢いのある地域に変われるのではないか。
⇒まずは地域に出て、歩いてみよう、話してみよう。

◇訪問・調査

- ・プルーン ・八坂かるたと発信 ・大滝の整備について考える
- ・覚音寺の歴史と未来 ・城ヶ峰復活に向けて

◇未来の八坂

八坂の現状を踏まえて、未来を描く（構想する）

- 1 診療所 高齢者が安心して暮らせる
- 2 気軽に歩ける山道
- 3 金熊33番札所
- 4 バス停
- 5 害獣対策 総合の時間鳥獣対策班
- 6 八坂かるたや八坂音頭
- 7 八坂大滝 大姥山等 歴史や伝説遺産
- 8 文化イベント スポーツイベント
- 9 格安の長期滞在保養施設やキャンプ場
- 10 日用品を買うスーパー



《タイトル》

- ◇つなぐれ！美麻のお店
- ◇僕たちが残したい美麻の軌跡



《内 容》

- ◇つなぐれ！美麻のお店
 - “美麻ブランド” 美麻の商品をブランドとしてうっていきたい。
 - ⇒ブランドについて学ぶ<ブランド化の二つの方法>
 - ① 認定制（自分たちが条件を決める）…私たちにそんな権利はない。
 - ② すべての賞品をブランド化…個性がつぶれる。ブランドの価値とは？
 - 自分たちのねらいは「お店をつなぐこと」。
 - ⇒スタンプカード（美麻のお店共通の）を構想。
 - ① 地区内のお店を調査
 - ② 既に行われていた似た取り組み
 - スタンプカードにはたくさんの課題がある。
 - ⇒今後の取り組み（視野を広げて）
 - ① MAP×コメントノート
 - ② 美麻市を盛り上げる

- ◇僕たちが残したい美麻の軌跡
 - たくさんのお年寄りの方の話を聞いた中で、“今しか聞けない話”や“伝えなければならないこと”がある。
 - ⇒自分たちの思いをフリーペーパーの形にして伝えたい。
 - ① 戦争（戦争体験と戦時中の美麻の生活）
 - ② 昔の狩り（お年寄りの方の子供の頃の経験など）
 - ③ 金婚式（お祝いの言葉や絆を確かめるクイズなどでお祝い）
 - ⇒今後の取り組み（美麻の未来を考える）
 - 今までの50年とこれからの50年をまとめる。
 - 「新たな美麻の100年誌」をフリーペーパーとして発行。

第2部 ミニワークショップ

第2部では、参加者が10テーブルに分かれて、活力ある魅力あふれる大町とするため、これからのまちづくりについてグループトークを行いました。

このミニワークショップの目的は、結論を出すものではなく、世代や立場を超えて意見交換を行い、参加者それぞれがこれからの活動に向けた新たな発見や思いを得ていただくことです。

話し合いのテーマ

中学生の皆さんの発表に関連した5つのテーマを設定しました。それぞれのテーブルでは、この中から抽選で決まった一つのテーマについてグループトークを行いました。

- ◇自然を活かすまちづくり
- ◇歴史、文化を活かすまちづくり
- ◇食、特産品を活かすまちづくり
- ◇人のつながりを活かすまちづくり
- ◇子どもを活かすまちづくり

グラドルール

- ① 自分の意見は素直に！恥ずかしがらずに言いましょう。
- ② 発言は2分以内！みんなが話せるようにしましょう。
- ③ 自分の意見だけでなく、周りの話しに応えましょう！
- ④ 前向きに捉える！共感は積極的に伝えましょう。
- ⑤ 主語は「私」。自分ならどうするか考えましょう！

進め方

- (1) 進行とグラドルールの説明
- (2) くじ引き代表者決めアイスブレイク
- (3) テーマ抽選
(2)で決まった代表者が壇上にてくじ引きを行い、各テーブルの話し合いのテーマを抽選しました。
- (4) 連想ワードの書き出しワーク
抽選で決まったテーマから思いつく言葉を付箋に書き出しました。
- (5) 自己紹介
- (6) グループトーク（意見交換）
(4)で書き出した連想ワードをきっかけに意見交換しました。
- (7) 「私のまとめ」
参加者それぞれから感想などをテーブル内で発表してもらいました。

グループ発表

各テーブルで出た意見を全体に発表し、思いやアイデアを共有しました。

テーマ

自然を活かすまちづくり

グループ番号

3

The sticky notes are organized into several clusters:

- Water & Nature:**
 - 水:** 水は飲み水 (Water is drinking water), 水が豊富 (Water is abundant), 水質 (Water quality), 水質悪化 (Water quality deterioration), 水質汚濁 (Water pollution).
 - 湖:** 湖 (Lake).
 - 山:** 山 (Mountain).
- Recreation & Environment:**
 - 遊ぶ:** 遊ぶ (Play/Recreation), 遊ぶ場所 (Play/Recreation spots), 遊ぶ時間 (Play/Recreation time).
 - 環境:** 環境 (Environment), 環境を良くする (Improve environment), 自然環境 (Natural environment), 自然環境PR (Natural environment PR).
 - 公園:** 公園 (Park), 自然公園 (Natural park), 遊び場 (Play area).
- Food & Agriculture:**
 - 食:** 食 (Food), おいしい食べ物 (Delicious food), 食 (Eat).
 - 農業:** 農業 (Agriculture), 農業体験 (Agriculture experience), 農産物 (Agricultural products), 農産物PR (Agricultural products PR).
 - 山:** 山のPR (Mountain PR), 山の景色 (Mountain scenery), 山 (Mountain).
- Other Themes:**
 - 生活:** 生活 (Life), 生活環境 (Living environment), 生活の質 (Quality of life).
 - 交通:** 交通 (Transportation), 交通手段 (Transportation means), 交通不便 (Transportation inconvenience).
 - 健康:** 健康 (Health), 健康維持 (Health maintenance), 健康志向 (Health-oriented).
 - 観光:** 観光 (Tourism), 観光客 (Tourists), 観光地 (Tourism spot).
 - 地域:** 地域 (Local area), 地域活性化 (Local area revitalization), 地域貢献 (Local area contribution).
 - 自然:** 自然 (Nature), 自然活用 (Nature utilization), 自然資源 (Natural resources).

グループ
番号
3

今の時代だから
こそ『本物』
を届ける達人へ
(高くてもいい! 大學生存X)

おおまちの

若い人たち
の茶室

街の中
へ入かえ
る町。

ちる木

地元の人が
可能性に気づく
大町が好まれる
場所をさかそう?

大町の中を
歩いてもらう方法を
考えよう!
(バス時刻表?)

体験
を大事にしたい。

共通
テーマ
が「必要」

大学などから大町
を離れても色んな
人に情報と
発信する

大町には
鬼力ある資源
がある(世界に誇れる!!!)

もったいない。
あとちかど。

大町市のPRを
私たちに子供を中心に
もっと重ねていく!

まずは
大町の人から
鬼力を生かす
体験する

自然
素材は一級品
が揃っている
調理する人
とシブが欲しい

もっと大町を
知る!!

気づ木

げん木

歩いて楽しい
ルートを歩き
ながら考える

大町には
たいていの可能性
がある。
あとはどう伝えるか
どうつながるか。

人間の固有
のみ・く!!
場所の開放

テーマ 自然を活かすまちづくり

グループ番号 10

A collection of colorful sticky notes arranged on a white background, organized into several vertical columns and clusters. The notes contain handwritten Japanese text related to nature and community development. Key themes include:

- Weather/Seasons:** 梅雨 (Plum Rain), 雨 (Rain), 台風 (Typhoon), 夏の涼し (Coolness of Summer), 冬の寒さ (Cold of Winter), 積雪 (Snow Accumulation), 雪 (Snow).
- Water:** 湖 (Lake), 川 (River), 湧流 (Spring Water), 水 (Water), 氷河 (Glacier), アルプス (Alps), 北アルプス (Northern Alps).
- Nature/Environment:** 山 (Mountain), 里山 (Satoyama), 森林 (Forest), 山菜 (Mountain Vegetables), 鹿肉 (Venison), 花 (Flowers), 草花 (Wildflowers), 写真 (Photography), 絵 (Painting), 景観 (Landscape).
- Community & Culture:** 交流 (Exchange), 若者 (Youth), 都陰 (Toyouin), 自然 (Nature), 自然体験 (Nature Experience), SNS, YouTube, 配信 (Streaming), 観光 (Tourism).
- Other:** 星 (Star), 農産物 (Agricultural Products), 仁科三湖 (Nikosei Sanko), 厚流 (Atsumi), 山 (Mountain), 山菜 (Mountain Vegetables), 山菜 (Mountain Vegetables), 鹿肉 (Venison), 花 (Flowers), 草花 (Wildflowers).

中学生の農具
川整備の活動
をもと多くの人
に知ってもらおう。

星空で
日の調子
(身体)
がわかる。

都会から
見た畑の
自然

体験する
ことが一番!

当りの前の中
にも変化が
ある。

星空、月が
キレイ
空を見上げる姿と
当りの前に見る

グループ
番号
10

おおまちの

CMやメディア
の活用。せまの
自然を時代に合った
PRができていない

おおま

知識だけでは
ダメ
体験が必要
そして、体験からの
感動が必要

自然を
活かした
産業がある。

星座の学習をして
も、夜に飾の目ど
実際に確認できる
アプリが不要

情報はSNSから
得ることが多い。
若い人に大町をPR
する手段は?

都会から戻って
大町で本当の空
を感じた

都会で知識が
あっても経験が少
ない人が多い。
大町は
実体験ができる

北アルプス
はんぱない

秋の紅葉

日本一
世界一
の北アルプス

湖で遊ぶ
食べる

体験から
学ぶ

自然の中で育
った経験は大いに
なつから活きる

VRでは
本当の自然は
感じられず

大町に住む人
の活動をPR
したい

地元の
誇り

自然の素晴
しさを発信
していく必要が
ある

北アルプス
の力
感動

若い人をもっと
取り込めるPRが
必要。

夜、暗い
でも、その分
夜空はキレイ

気づ木

水道水の
美味しさ

げん木

大町を出ると
水道水は飲め
ない

北アルプス
を見ると地元
にいる安心感
がある

登山
カメラで記録

自然に発生し
た水を地元ご
とで持ち飲める
素晴しさ

登山の時は
沢の水を
飲む

水にキレイが
ある。

水道水を
おいしく飲め
るありがたさ

冷たい水道水
都会では温度
臭い気になる。

テーマ 歴史・文化を活かすまちづくり

グループ番号

7

大野の

いいところ!

自然	雪
登山	景色

名所!

黒部ダム	スキー場
商店街	

食べること!

食	流通	レストラン
水	ダム	和菓子
おまつりでふるまう名物料理	そば	伊ナ
ジビエ	かり	地元におお
生きているものを食べる実感		

言いたえ

金町	やまば
(ハ坂)	(ハ坂)
市史	

玉子の祭り	やまびこ祭り	かまどの大祭り
よさこい祭り	祭	おみやげ
国祭芸術祭	おはせし	やぶさめ
おふね祭り	舞台	おんこ

文化財

文化財	寺
仁科神明宮	中村家住宅

イベント

アルプスマラソン	スキー場火まつり
立川の交流	総文祭

祭を中心につながった!!

コラボできそう!

観光に活かす	空き屋
茶道バー	歴史
旅	博物館へ行く途中歴史学はしる

気がいた!

不便だがいい!	世代間交流
やぶさめと御印柱どっちが有名?	子どもが少ない
↑差にヒートが...	地域ごと昔からある(しきたり)
地域に密着	

発展させるには...?

協力	意外と知らない	宣伝
コラボ	近場からせめる	SNS
つながる	伝える	口コミ
単発で終わらせない	友達から聞く	県以外の人を来る
ネットイベント		

おおまの

ちる木

今回知ったことなどを
友達や大人、他県の人
々に宣伝して、知って
もらう。
う。

祭などの文化
や、食、体験
を工夫して
みたい。

身近な地域で
行われている祭は
地域の人しか
知らなくて
情報伝達!

むかしからの
食文化を
子供達に
伝える。

地元の中で
ジビエを
食べる

まわりはみんな
知ってるか!!
PR不足

大田から
はなると
地区の文化日
しらべていない!

国祭芸術
祭に力を入
れる。

北アルプス
国際芸術祭、
を知らない

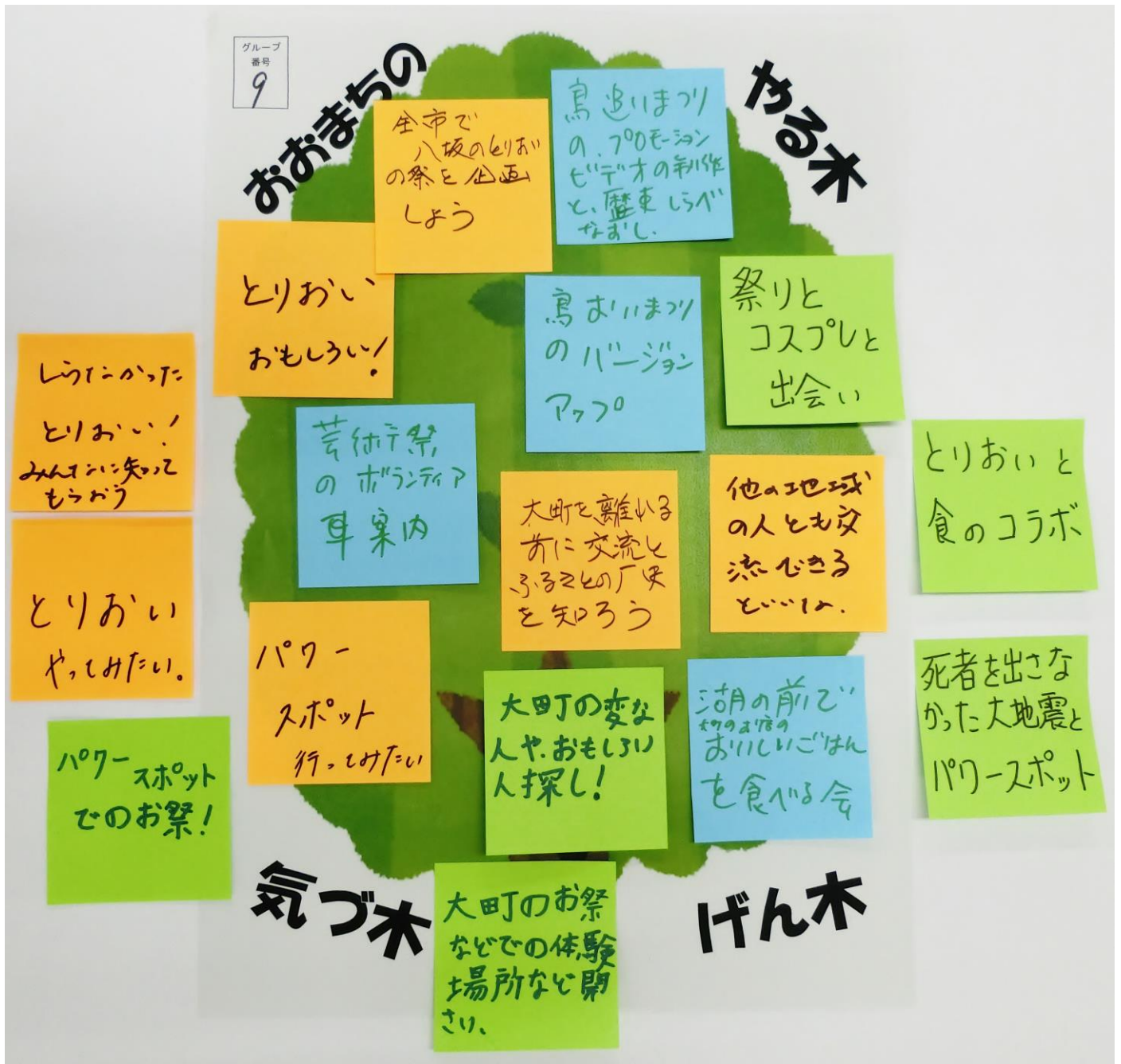
歴史・文化を
伝えるための
情報伝達手段

歴史ある
お祭りを
外にPRする
努力

気づ木

差が
気になります

げん木



どのグループも世代をこえて、活発に話し合いました



テーマ 食・特産品を活かすまちづくり

グループ番号 2



食は食べに
来てもらう!
気候・風土が
大切!

大町の"食"
と、観光客
自ら体験する
ことで興味ある。

グループ
番号
2

まず大町に来て
もらい、おもしろく
大町の良い食などを
体験を通じてよくし
いかながらいいと思う

おおまちの

まず"観光
客に食べに
もらうことが
大切!"

ちる木

地元の材料
で"食べ物
体験。

最終的には
実行してみる
こと。

大町には、
食べに"来て"と
人気が"多い"と
思っている。

地元に来て
もらって食べに
もらう

食材の良さを
どう知らせるか
大町の"特産品"
をどう出すか!

グムカシーヤ
おやまのチロミ

飲食店が
少ない
↓
屋台が"おもしろい"!

駅や扇沢駅など、
人の集まる場所に
屋台を"というの"
おもしろそうに
思った。

あたり前だと思
っていたものも
食べに来てもらう
と目標とすれば
活用できることが
わかった。

特産品
屋台で

良い意見を
まとめて新しい
案をうみだす。

駅前に
食堂。

自分の住んでいる所
ごとく改めて知った
りするものが多かった。

気づ木

げん木

何事も話し
合うことが大切。

大町らしさ
(物語性)
をどうつくるか

テーマ 食・特産品をいかすまちづくり

グループ番号

6

お猿が
きらいな
作物作りで
活性化

観光客
の
参加

国内の評価
より海外の
評価をどう
するか

後継ぎ
問題

アイキ
ナムクレー
ソバ
野菜

青とうがらし
ラー油

特産品は
何の
お米?

青とうがらし
を使った
食品

カフェ

遅くまで
開いてる
店

ファスト
フードでの
輸入文化

日本酒
三蔵飲み
歩き

イノシシの
嫌いな
作物作り

キッチンカー

野沢菜
のつりもの

新しい品種
を導入する。

野沢菜

甘ずっぱい
りんご

期間限定
商品

わがびや
その地にあった
農作物

食・おやき・水
野沢菜など
の伝統的な
(有名)もの

水

凍りもち

常盤
直売所

広告・チラシ
ポスター

・必加
・おやき
・野沢菜
・お漬物
・お酒

・りんご
・そば
・菅島の里

そこへ
行かないと
食べれない

地酒

第三者の
口コミ

情報発信
の方法

山菜
おこわ

恵まれた
気候

自然 人
現代アート
ほどよく都会
ほどよく田舎

ダブル

SNS
紹介・特典

大町の食は
ソバ?

そば
祭り

おやき

ちよとた
お土産
↓
おける、おこわ?

大町駅に
駅弁
おやき

ソバ

おま

外国の皆さんの
評価も
大切に

青とろからして
各家庭のアイディア
と味付けで
広げてゆく

ちる木

色々な人の
話を聞く。

大町は美味
い木の宝庫
なので料理に
活用してほしい

市全体が知っ
ている事を多く
知る：こができた
手、知らないことも
知れた。

新たなもの
困っていること
↓
対策から
生まれる産物

中学校の
生徒さんの意見
はしっかりと
頼もしい

楽しい
イベント
(安くても)

大町に自分の
知らない食の
文化があつた
のが食べたい!!

郷土料理を
実際に自分で作っ
てリレシをいろいろ
場所以発信してみ
たい

- ・青とろからしを組織
的につくる
- ・いかに多くの人に知
らされるように発信する

今ある物の
発信方法を
工夫して、市外
の人に知ってもら

気

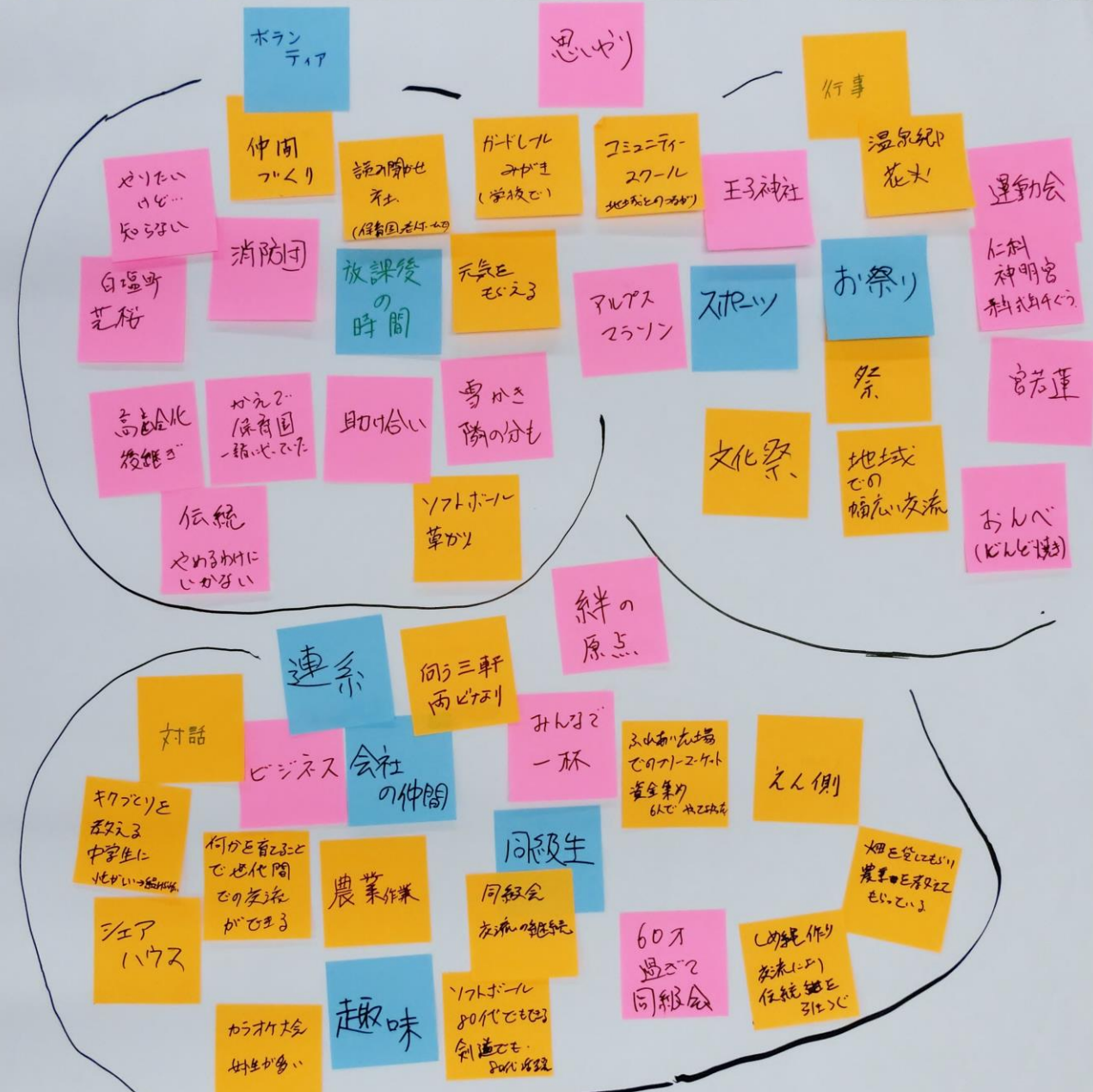
日本(大町)
らしさと
外国の「もの」
との融合

- ・外国人の方に特産品
を食べてもらい、なめて
いただく機会をつ

げん木

テーマ 人のつながりを活かすまちづくり

グループ番号 5



生まれたアイデア

- リーダの育成
- 発表の場 ほしい。
- 小さい子が 遊べる 室内施設
- 下町の子が 楽しめる 施設
- 講習会 やって 地域増進
- 花の祭り 市民参加
- 駅伝 やって?
- 世代交流 世代を超えた 交流 (若林 知識の幅)

グループ
番号
5

おおまの

ちる木

人とのつながりは、
ボランティアや行事
などでつながって
いけばいいと思っ
ました。

世代の違う
人の意見
参考にしたい。

中学生の前向き
行動に拍手!!
老人よ元気なせよ。
ホーとしたら
チコちゃんにさらされ
るぞ。

こ木からも
地域の方との
かかわりを
大切にしていき
たい。

様々な意見を聞く
ことが出来参考に
なりました。

同じ趣味
同士の集まり

幹事さん
が必要

気づ木

げん木

テーマ 人のつながりを活かすまちづくり

グループ番号 8

Handwritten notes on a whiteboard, organized into several clusters:

- Top Left:**
 - 好きなもの 共通な話題
 - 年の差も あっても 共通の話題
 - 一趣味か
 - 地域の人
 - 素人学
 - 友達
 - リピーター
- Middle Left:**
 - つながり方 方法
 - 好き好事 リスト
 - 人が 足りない
 - 信頼 関係
 - 信頼
 - おもしろく! 楽しく!
 - 共通話題
 - 余 時間 余裕
 - クラブチーム
- Middle Right:**
 - お祭りの 日程をずらす
 - 地区行事
 - お祭り イベント
 - 祭り
 - ゲーム イベント
 - イベント
 - イベント
 - イベント
 - 小団体同士の つながり
- Bottom Left:**
 - 交流の場
 - 集まる 場所
 - 集まる場所 (災害の時の 助け合いの場)
 - 交流場所
 - 地域と かわる 場
 - 顔が 知られている
 - 3万人くらい がちやうど
 - 周囲の 人が 見える
 - 災害時の 助け合い
 - 近所の お付き合い
 - 自治会の つながりが ストレスになる
 - 道祖神
 - 世代間 交流
 - 昔は 集まる 機会が 多かった
 - SNS
 - SNS
 - SNS
 - あひまっ あひまっ 「元気のやん？」 挨拶
 - つながり は大きく なくてもいい
 - 地区の中にも 世代間で 別れてはいる
 - 小さな つながりを 大切に
 - 人口が少い けど ネット だけではない
- Bottom Right:**
 - 趣味 特技
 - ミニコミ誌
 - 地域性 コミュニティ ネットワーク
 - 学校 学校
 - 商店街 若者

グループ
番号
8

おおまの

ちる木

周りの人との
関わり

周囲の人の
好きなお事が
わかる仕組み

他の団体と連
携して行事等
が継続できる
ようにする

共通の話題
(複数)で
⇒見える化

他の地域よりも
市民活動がさかん
であることがわか
った

地区の中で
集まる機会に、
特技・好きな事を
考えたい

聴く = つながる
{ それぞれの方の考え方
{ その方を知るこ
→ 町で会った時、
はとたりそうでき

ご近所さん

団体間へ
連携促進
イベント企画
(日程表)

人とのつながりには
自分と同じ趣味の
人を見つけることが
大切だと思った。

気づ木

げん木

テーマ

子どもを活かしたまちづくり

グループ番号

1

未来を教える

遊び
ゲーム

言語
文芸
音楽

道庁路
公園
緑

笑顔

元気

田舎
（田舎の良さ）

田舎を（一部）
AIで（？）

田舎の
良さ

赤松
元気が
元気な
行動力
ある人

読書
読書

田舎を（一部）
AIで（？）
田舎を
AIで（？）
田舎を

田舎を（一部）
AIで（？）
田舎を
AIで（？）
田舎を

田舎を（一部）
AIで（？）

教育改革

お金

入試

義務教育

ゲーム

グループ
番号
/

おおまちの

ちる木

子供たちが
将来にわたって
くらしたいと思え
る大町に

コミュニケーション
の
大切さ

Uターン
したくなる
大町の魅力

多様化する社会で、
何が「幸福」なのかは
定義できない。
ただ、選択技術と後が
持てるような環境が
必要...

元気
市民同士があれこれ
交し、声を掛け合うお
な街北りにつな
がると思います。

やる気
「どうせ大町なんて」と、
自分のふるさとを卑下す
るのでなく、もっと良くし
て行こうとする意欲が
大切だと思います。

〈元気と元気〉
中学生、小学生の声を
のこし地域の声々に
伝えた。(場と機会)

大町の環境を
生かしていいよ
子どもにとっても大人
(市民)にとっても
活かす状況か

気付き
新しいとは、未来を
担う子ども達や市民
の夢が実現できる
地域を創り上げ
ること、と気付いた。

いっぱいある事を
確認した。

あいさつ、

感想-

- ・中学生に対してどんな
ことかと思、7人の方
多くのことを知れた

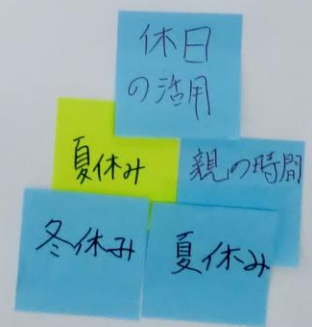
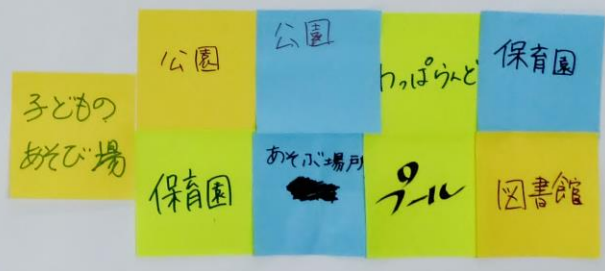
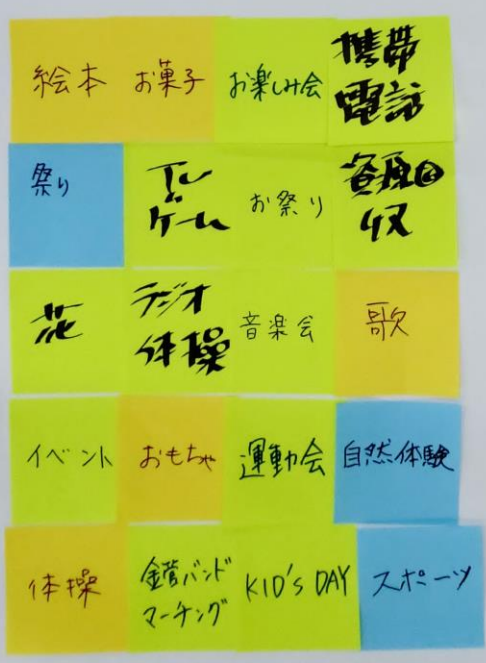
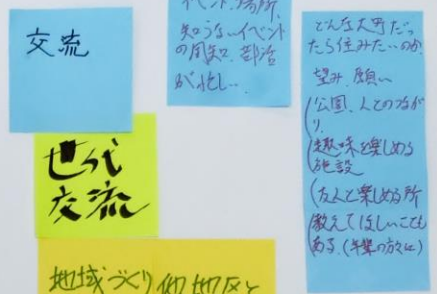
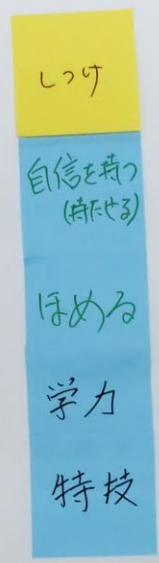
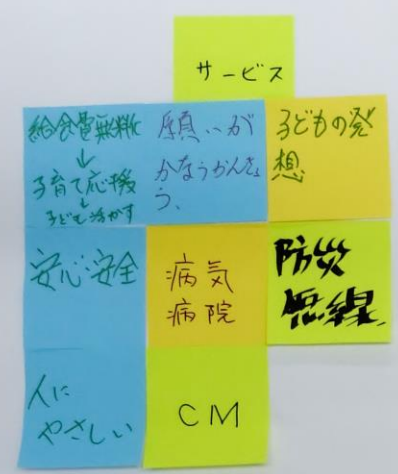
大都会にないものか
ある。信州、大町を
ずくだして我々が
いい町にしていく
気がして。

家庭、地区、地域
が氷からいかに
大町にたつてくるか
です

テーマ 子どもを活かす まちづくり

グループ番号 4

家が広いので外に出た子供が少なくなっている。外に出る機会を増やすこと。	子どもの遊び場（学童施設）が不足している。遊ぶ場所を増やすこと。	親の考え方の時代的変化。過保護による子どもの自立。	情報が溢れ、情報の質が低下している。地域間をつなぐ手段が必要。	子どもが忙しい。時間的余裕が足りない。行政、学校、市民の連携。	平等な機会が与えられていない。とりまきなどの活動。	全ては与えられたものではない。主体的な実践。主体的な実践。主体的な実践。	このままではいけない。現状を知ることが大切。そこから変えていくことが必要。		
楽しいイベントが少なくなっている。休みの活用。	違う地区との交流がわがや楽しそう。	遊んで遊んで交流が良くなる。遊び場を多く作る。	コミュニティの活性化。地域の活性化。地域の活性化。	地域の見守り隊の活用。地域間の連携。	場所、手段、時間、費用の確保。	地域、親が教えてくれたことが、子どもたちの成長のために大切。	子どもの成長のために、子どもたちが活躍できる環境を作る必要がある。	昔の日常生活が特別に感じた。田舎の生活。	遊具が壊れた遊具が少なくない。



おまじの

ちる木

イベントなど
をもっと増やす。

サークル活動
などにも
小中高生を!

高齢者との
交流をもっと
増やす。

高齢者の方と
も、とふれあ
たいと思った。

情報交換の
窓の明確
になる嬉しい。

大人が
めっちゃ
協力的!

中高生が
世代間の
交流を求めて
いる!!

お祭りの日に、アネ
に出て来ると人が
いっぱいになって
います。

買い物ができ
る場をふかして
ほしいと思った。

他世代や
他地区と
交流してほしい

公園が欲しい
ということをおまじ考
えたことがなかった
で知れてよかった。

あそび場所を
増やすといい。
~~地~~
他地区との交流

~~本~~ 八坂や
アサと交流し
て大町市をもっと
知りた。

子ども交流の
場所が減っている。

大町を知り
良い大町を
再認識する

気づ木

げん木

アンケート結果 【参加者約 120 人中 回答 44 人】（回答率 37%）

●年齢

10代	12人(27%)	30代	4人(9%)	40代	6人(14%)
50代	8人(18%)	60代	10人(23%)	70代以上	4人(9%)

●性別

男性	31人(70%)	女性	13人(30%)
----	----------	----	----------

●フォーラムに参加していかがでしたか

満足	34人(77%)	まあまあ満足	10人(23%)		
どちらでもない	・	まあまあ不満	・	不満	…0人

●感想（抜粋）

中学生・高校生

- ・違う学校の発表を聞いて、見方や考え方が違ったりしてとても楽しかった。
- ・いろいろな学校、世代の方からお話を聞き、私たちだけでは出なかった意見を知ることができてよかった。
- ・意見を共有することで、新たな発見があった。
- ・他校での学習の報告を聞いて、自分たちが知らない大町の良さを知ることができた。
- ・年齢層により考え方や想いが違って、とてもよい刺激になった。

他の世代

- ・多くの世代、市内の他地域の話が共有できとてもよかった。
- ・中学生の皆さんにとって、実際に地域に出て発表をし、フィードバックをもらえる機会はとても貴重だと感じた。中学生に限らず、高校生も巻き込んでいきたい。若い子たちの新しい発想やパワーを地域課題につなげていけるようにしたい。
- ・大町の魅力も再認識でき、本物を体験できるまちづくりをこれからも頑張っていきたいと感じた。
- ・中学生の発表がアイデアに富んでいて素晴らしかった。世代間の話合いが新鮮。
- ・こういう場に出てきたアイデアを大事にしてほしい。
- ・中学生ならではの視点がとてもよかった。若い人の意見をもっと聞きたい。中高生の参加がもっと増えてくれるとうれしい。
- ・日頃会えない若い人やアーティストと話げできた。新鮮。
- ・中学生たちがしっかりした視点でまちづくりを考えているのが印象的だった。
- ・各中学生が一所懸命やっていることがわかった。もっとPRしたほうが良いと思う。
- ・中学生にはこれからも地域への関心を持ち続け、愛着や誇りにつなげてほしいと思った。第2部の意見交換は、じっくりできて盛り上がった。